

【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の有用植物
3	資料名	サトウキビ
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄、生活文化、SDGs、サトウキビ、有用植物
6	説明	<p>サトウキビは、琉球王朝時代、儀間真常（1557-1644）により中国福建省からその栽培方法と製糖方法が伝えられた。現在では沖縄県の全耕地面積の約5割がその栽培に使われており、県内農家の約7割が栽培に従事している（令和4年度 沖縄県農林水産部調査）。サトウキビは強風や日照りに強く高温多湿を好むため、台風の多い沖縄でも栽培することができる。</p> <p>栽培・製糖・加工・販売による雇用機会の確保など、沖縄の地域経済を支える主要農産物である。</p> <p>サトウキビは沖縄方言でウージとよばれ、沖縄の特産品でもある黒糖は、郷土料理や菓子、土産品など、幅広く使われており、古くからの沖縄の慣習や生活文化に深く根付いている。</p> <p>野外博物館である琉球村（沖縄県恩納村）には、サーター車（砂糖車）が展示されている。サーター車は牛や馬に砂糖車を引かせてサトウキビを絞る歯車のことで、古くから黒砂糖を作る製糖方法であり、儀間真常によって中国から伝えられたもののひとつである。</p>  <p>水牛等が軸木を引いて歩くと中央の歯車が回転し、そこにサトウキビを入れて絞り、しぼられた汁は地下のパイプを通してタンクに集められる。</p> <p>その後、大きな窯で約5時間、120度の温度であく抜きをしながら煮詰めていくと水飴状になる。これを鍋に移し空気を入れながら攪拌し、固めると黒砂糖ができあがる。</p> <p>近年では、サトウキビのしぼり汁から取り除かれた糖蜜はバイオエタノールの原料や家畜のエサに、搾りかす（バガス）は製糖工場の燃料や次のサトウキビ栽培の肥料に使用されるなど、持続可能なエネルギーや資源として注目されている。</p>

7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	撮影者：*****
9	時代・年	撮影日：2025/02/09
10	地域・場所	沖縄県島尻郡西原町
11	利用条件	表示 4.0 国際(CC BY 4.0)
12	関連資料1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2025/02/15
16	登録者	宮田璃音
17	ファクトデータ	 circd0862-0005. jpg
18	*特色	<p>①与那原・西原地区とサトウキビ</p> <p>岐阜女子大学沖縄サテライト校が位置する与那原・西原地区は戦後からサトウキビ産業が盛んでサトウキビの名産地であった。当時は県中南部で最大規模の製糖工場があったほど、サトウキビと深い関係性にあったが、食生活の変化や後継者不足、地域の観光化に伴い、産業である窯業やひじき漁、サトウキビ産業等の一次産業から、飲食など住民向けのサービス産業にかわりつつあるという現状がある。</p> <p>②SDGs とサトウキビの関わり</p>

表 1. SDGs とサトウキビの関わり

	SDGs の目標	サトウキビに関する内容
目標 3 すべての人に健康と福祉を	[保健] あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	サトウキビからつくられた沖縄の伝統菓子「黒糖」には、白糖やちみつと比較して、ミネラルやビタミンが多く含まれている。ひと口黒糖は休憩時間のお茶請けや、中学校・高校の部活などの夏バテ防止やミネラル補給として配られたりする。
目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	[エネルギー] すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。	バガス等のリサイクルを通じて持続可能な資源として近年注目されている。燃料、肥料、バイオエタノールの原料や家畜のエサなど多岐にわたって利用されている。
目標 8 働きがいも経済成長も	[経済成長と雇用] 包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	沖縄の地域に根付くサトウキビ産業は、地元の経済や製糖を通じた雇用機会の確保・維持にも繋がっているものの、農家の高齢化や継承者・働き手の減少により生産率は年々減少している（令和 6 年度 沖縄県農林水産部調査）。
目標 9 産業と技術革新の基礎を作ろう	[インフラ、産業化、イノベーション] 強靱（レジリエント）構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの促進を図る	サトウキビ農業体験や黒糖作りのワークショップ等の観光業を通じた取り組みや、新たな技術を使用したサトウキビ製品の開発など、技術の進歩や観光化による新たなビジネスチャンスが続々と産出されている。
目標 12 つくる責任 つかう責任	[持続可能な消費と生産] 持続可能な消費生産形態を確保する	バガスを使用した 100%天然成分のストローやプレート、ペーパー等が、防水性・防油性の高さや通気性がよさ、料理が蒸れにくさや料理を引きただせる色味などの利点と環境への配慮から、飲食店からの需要が高まりつつある。
目標 15 陸の豊かさを守ろう	[陸上資源] 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する	サトウキビの葉は、他の植物と比べて二酸化炭素を吸着する効果が高い、日射量が強くても吸着できるなど、植えているだけで CO2 の削減効果がある。

③ウージ染め

ウージとは沖縄の方言でサトウキビをさし、ウージ染めとはサトウキビを利用した染め物、織物をさす。

染色にはサトウキビの葉と穂の部分を用い、刈り取ったサトウキビの葉を細かく切り、2～3 時間かけて煮出し、こす作業を 2 回繰り返して染液を取り出す。その後、先に糸を染めた後に織り上げる「先染め」と、布を絞り等で後から染めていく「後染め」の 2 通りの方法で染め上げていく。

染液につける時間や葉を刈り取る季節によっても少しずつ色が変わり、若草色や萌葱色などのグリーン系から黄金色などの落ち着いたイエロー系まで、様々な素朴な自然な色合いを楽しむことができる。

また、葉の青々とした夏の時期には黄色が強くなり冬には渋みがかかった色に染まる。

④黒糖ウェーキ（黒糖大尽）

1623 年頃、琉球国から生産・輸出されていた黒糖は、鎖国令をしていた日本にとって貴重品として珍重されていた。当時、琉球国を統治していた薩摩藩はこのことを受け、儀間真常を通じて黒糖産業を奨励、発展させ専売制を取り、このことが生産拡大につながった。

明治以降も黒糖は沖縄を代表する産業として位置づけられたため、生産地である中部・北部においては黒糖生産を基盤とした成功者が続出した。この成功者をさす言葉として「黒糖ウェーキ（黒糖大尽；お金持ち）」が生まれた。ウェーキは大宅（ウエケ）から変化したものと思われる。

		<p>黒糖は、薩摩藩のルートによって関西で販売され、黒糖の相場は独占価格によって薩摩藩にゆだねられていた。公家・貴族は黒糖を「貴重薬」として扱い、琉球からの輸出品として薩摩藩からの扱い品目とされている。</p> <p>黒糖の利益によって、薩摩藩は赤字財政を埋め、黒字財政へと転じた。その後、利益を元手にフランスから軍艦や鉄砲を購入し、「薩長同盟」を結び、明治維新のリーダーとしての地位を確立していったといわれている。</p> <p>参考：亀島靖・沖観協、『琉球むらものがたり 琉球王朝を支えた村里』，琉球村。</p>
19	* 活用支援	
20	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
21	* 改善結果	
22	* 処理プロセス	
23	* 関連資料 2	